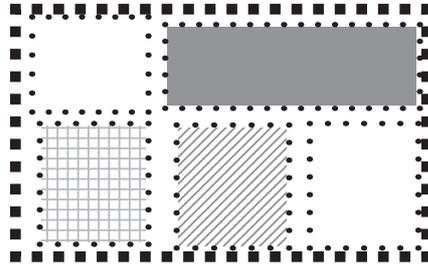


土地の分け方で風景が見える



一人の仕事の内容で風景が変わる
各々に仕事をする

農業と風景のハーモニー

土地の利用の発展 シュテファニー・シュスター（ミュンヘン）

牛、豚、共同作業は農村風景に合うが、当事者はネガティブで儲からない。
農業は低い位置にある
農業が奥に追いやられる

ドイツの農業従事者 2%

牛を大量生産、大量消費によって風景が変わる。
建物の中で飼われる。

エサ、品種が変化し病気がおきる

昔は牧草の中に放し飼いであった。

農地の土壌保全などを考えて農業を考えた。

おじいちゃん時代、親の時代、孫の時代によって農業の風景の
認識が変わる。

今の世代の人たちは、今の農業のさびれた姿に嘆き、

子供達は都会に住んでしまう。

大学生の60名の内、都会から来ている人がほとんど。

田舎からは1名くらいである。

天気、生活などの体験がないから、農業に対する意識が違う(頭の中だけ)
都会の人の農業の理解が足りない。

農業でも財産を受け継いだ人、大きな農場を持つ人、儲かっている人、
いろんな人がいる。

村と土地利用の歴史 アグネス・ツェーケ（ハンガリー）

ハンガリーの小さな村

農業に不適な農地（石灰質土壌）

年間 600mm / mの雨

1935年 600人 = 235ha 現在でも同じ人に

みんなが平等に土地をもっている

動物を歩かせる道（馬、牛、豚、ヤギ）

豚を森に連れて行く。

ヤギは何でも食べる。森の雑草、芽を食べて森が周囲に広がるのを防ぐ。

牧草に果樹を植え、二つの収穫を上げる。

密に梅を植え、細く伸ばす。揺らして収穫する。

牧草は年に2回収穫する。

森から葺、建築材をとり、森が壊れた。